

課題委員会報告

以上三委員の出席を得ることができなかったが、二十九年の暮、十二月三十日の午後、有楽亭左衛門・喜多野清一・大内力の三委員と事務所五名へ東大三名・教育大二名が学士会館に集って、三十年度の共同課題について協議した。この会合によって一つの明確な線がうち出されたわけではないが、以下多少の不統一のままに要点をお伝えしたい。もしこの報告に高慶の一貫性が見られたら、それは記者が擬案された多様な意見を充分に掌握できなかったことに由るのである。当日の会合で確定的な結論に到達しえなかったからそのときの出席者にいじめいの意見を書いて貰う必要があった。だが、確定したテーマをGHQ発表のように出すよりは、協議途上のものをこの紙面に公開し、それに対する会費諸兄の意見を寄せて貰って、「通信」を協議の場として利用すること、そして諸兄と共にこの問題を一しよに考えてゆくことの方が、われわれにふさわしいやり方だと思ふ。大会の日に委員会へ投げ渡されたボールを、こんどは諸兄の手へ投げ返そうというものである。いろいろ注文をつけて、すぐにも投げ返していただきたい。そして、紙上での討論が、次期大会の討論会へ接続してゆくよう、切に希望する。

(文責 事務所 森岡)

記

一、問題

潜在失業の問題を中心にして、農家人口を分析し、農家労働力構成の変化が、家族構造にどのような影響をあたえているかを調査研究する。

二、限定

- (1) 大会協議会の閉上、議題にのぼった「村落共同体」の問題は、三十年度のテーマとしてはとりあげない。
- (2) 農家人口を家族の範囲でみることにし、

三、着眼

村落構造との関連には力をいれない。
(1) 農家人口の分析に主力をおき、農家の分析は従とする。

(2) 農家経営における農業労働力を分析し、労働力構成、労働力の年間配分等へ、増加した人口がどういう形を経営のなかに吸収されているか(集約化の内容)、吸収されない労働力はどのような処置されているか(通勤・出張等の様態)。

(3) 少数の農家について戦争中にまでさかのぼり、この十年ないし二十年の間におこった人口移動を追跡することに、(1)の分析を行う。

(4) 家族内の役割分担(家長・主婦・経営者等)が右の変化に対応しつつ、どのように果されているか。家族員の身分上の変化(結婚・相続・分家・就転等)がどのように行われているか。

四、註

(1) 村の全体的な人口移動とか、出生率等の背景調査は当然なされねばならぬが、ここでその項目を列挙しない。

(2) 「農村人口」とは農村地域に居住する人口をいい、「農家人口」とは農業を家の職業とする人口で、農村人口中非農家人口を除いた部分である。「農家人口」とは農業を職業とする人口であるから、農業人口中、非農的職業につく人口と未就業人口は除かれ、農家人口でなくとも農業を職業とする人口は含まれる。

(3) 「農業労働力から離れる年令」とは、雇作における基幹労働(荒起し等)から離れる年令をいう。基幹労働力から離れても、運搬等補助労働にはかなりの従事する。

従事する。